

July 19, 2019

【前日の為替概況】ドル円、7月FOMC利下げ確率上昇で108.02円から107.21円まで下落

18日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は107.30円と前営業日NY終値(107.95円)と比べて65銭程度のドル安水準だった。7月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数が21.8と予想の5.0を大幅に上回ると円売り・ドル買いが先行し、108.02円と日通し高値を付けた。6月米景気先行指標総合指数が前月比0.3%低下と予想の0.1%上昇に反して低下したことが分かる弱含む展開に。ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁が「積極的に予防的なアプローチをとるほうが良い」と述べ、クラリダFRB副議長が「不確実性は増しており、早期に動く必要がある」と発言すると、月末の米連邦公開市場委員会(FOMC)で0.50%の利下げを見込む確率が急上昇し、107.21円まで下落した。「米軍が中東ホルムズ海峡でイラン無人機を撃墜した」ことで、米イラン間の軍事的緊張の高まりが相場の重しとなった面もある。

ユーロドルは続伸。終値は1.1277ドルと前営業日NY終値(1.1224ドル)と比べて0.0053ドル程度のユーロ高水準だった。「欧州中央銀行(ECB)は物価目標の修正を検討」との報道を受けて1.1205ドルまで下落後、NY連銀総裁やFRB副議長の発言を受けて、米金利が低下したことで1.1281ドルまで反発した。

ユーロ円は5日続落。終値は120.99円と前日NY終値(121.16円)と比べて17銭程度のユーロ安水準。南アフリカランドはしっかり。南アフリカ準備銀行(SARB)はこの日、市場の予想通り政策金利を現行の6.75%から6.50%に引き下げたものの、クガニャゴSARB総裁が会見で「政策の決定は全会一致」「0.50%の利下げについて議論しなかった」などと述べ、追加利下げに慎重な姿勢を示すとランド買いで反応した。ドルランドは一時13.8162ランド、ランド円は7.78円までランド高に振れた。

トルコリラは堅調。トランプ米大統領が「現時点では対トルコ経済制裁はないだろう」との見解を示すと、トルコの通貨リラを買い戻す動きにつながった。ドルリラは一時5.6126リラ、リラ円は19.19円までリラ高に振れた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、7/31FOMCでの0.5%利下げ確率(65.5%)で続落か

本日の東京市場のドル円は、7月30-31日のFOMCでの予防的利下げ確率が65.5%まで上昇していること、イランと米国の軍事衝突の可能性が高まっていることなどで続落が予想される。

ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁は「積極的に予防的なアプローチをとるほうが良い。現在、米国の中立金利は0.5%程度と予測」と述べた。NY連銀は「ウィリアムズ総裁の発言は、学術的内容であり次回FOMCにおける政策行動に関するものではない」と表明している。

中立金利が0.50%程度だとすれば、期待インフレ率は1.7%程度なので、中立金利水準は、2.2%付近となり、現在の政策金利であるFF金利誘導目標(2.25-2.50%)を下回っていることで、金融政策は引き締め気味となり、0.50%程度の利下げが必要となる。

また、6月のNY連銀米国景気後退確率指数が32.9%まで上昇しており、30%を超えた場合、過去7回のリセッション(景気後退)の先行指標となっていることで要警戒か。

パウエルFRB議長は、昨年秋までは2.85-3.00%と想定されていた中立金利水準には「まだ距離がある」として2018年12月のFOMCで第9次追加利上げ(2.25-2.50%)を断行した。しかし、今年になってからは、中立金利水準の下限は2.50%程度に低下したとして、「忍耐強く」なるとして利上げ路線を停止し、6月には「適切に行動」するとして予防的利下げを示唆している。議会証言では、過去4年間の政策の誤りを認め、米経済の変化を過小評価していたがために過度の金融引き締めがあった可能性を認めている。

米中通商協議に関しては、今週の電話会談が生産的ならば、再開することが示唆されていたものの、現時点では再開されるとの報道はない。2019年1-6月の中国の対米貿易黒字は、1404.8億ドルとなり、昨年同時期の1337.6億ドルから5%程度増加している。

日米通商協議に関しては、参議院選挙後の8月に再開されて9月の日米首脳会談での一部合意の可能性が報じられている。2019年1-6月の日本の対米貿易黒字は、3.459兆円となり、昨年同時期の3.151兆円から10%程度増加している。

トランプ米大統領が保護貿易主義の観点から貿易戦争に乗り出したにも関わらず、米国の貿易赤字は増加傾向にあり、2020年秋の米大統領選挙に向けて、「貿易戦争」に加えて「通貨安戦争」に乗り出す可能性、すなわち、米国によるドル売り介入の可能性に要警戒なのかもしれない。しかし、ムニューシン米財務長官は、G-7財務相・中央銀行総裁会議で「現時点でドル政策に変更はない」と述べている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ☆ 6月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比 0.6%）
- 08:30 ☆ 6月全国 CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比 0.5%）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 13:30 ◇ 5月全産業活動指数（予想：前月比 0.3%）
- 21 日 参院選投開票

<海外>

- 15:00 ◇ 6月独生産者物価指数（PPI、予想：前月比▲0.2%）
- 17:00 ◇ 5月ユーロ圏経常収支（季節調整済／季節調整前）
- 21:30 ◎ 5月カナダ小売売上高（予想：前月比 0.3%／自動車を除く前月比 0.4%）
- 23:00 ◎ 7月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、速報値、予想：98.5）
- 20 日 00:10 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演
- 20 日 05:30 ◎ ローゼングレン米ボストン連銀総裁、黒田日銀総裁、パネルディスカッションに参加

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

18日 05:58 麻生太郎財務相

「リブラ(Facebookの仮想通貨)の信頼性を精査する必要がある」

18日 07:14 トルコ外務省

(米がトルコをF35プログラムから排除するという決定に対して)

「両国関係に取り返しのでないダメージを与える」

「米のF35売却凍結は不当」

18日 08:41 ストルテンベルグ北大西洋条約機構

(NATO)事務総長

「トルコはNATOの重要なメンバーのまま」

「トルコが米最新鋭ステルス戦闘機F35を取得できないことは“良くない事”」

18日 14:33 ディマイオ伊副首相(五つ星運動党首)

「連立政権は維持される」

18日 14:36 サルビーニ伊副首相(同盟党首)

「連立は維持するも、夏以後に解散総選挙を実施する可能性は残る」

18日 14:51 ビルロワドガロー仏中銀総裁

「世界経済の減速は明白」

「G7は仮想通貨リブラへの警戒で一致」

「中央銀行は減速に備えた対応を行っている」

18日 20:44 ムニューシン米財務長官

「米国の通貨政策は今のところ変化していない」

18日 20:50 黒田日銀総裁

「粘り強く強力な金融緩和を継続していく」

18日 22:09 クガニャゴ南アフリカ準備銀行(SARB)総裁

「インフレ期待は引き続き緩やか」

「ランドは若干過小評価されている」

「政策の決定は全会一致」

「さらなる決定はデータ次第」

「0.50%の利下げについて議論しなかった」

18日 22:22 ブラード米セントルイス連銀総裁

「2、3回の利下げでイールドカーブが上向き公算」

18日 23:49 ボスティック米アトランタ連銀総裁

「逆イールドによる警戒シグナルを重要視せず」

19日 03:12 ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁

「大惨事を待つよりも予防的なアプローチをとるほうが良い」

「現在、米国の中立金利は0.5%程度と予測」

「金利がゼロ近辺の時は迅速に追加の金融緩和に踏み切る必要」

19日 03:35 トランプ米大統領

「現時点では対トルコ経済制裁はないだろう」

「米海軍が防衛のため、イラン無人機を撃墜」

19日 04:18 クラリダ米連邦準備理事会(FRB)副議長

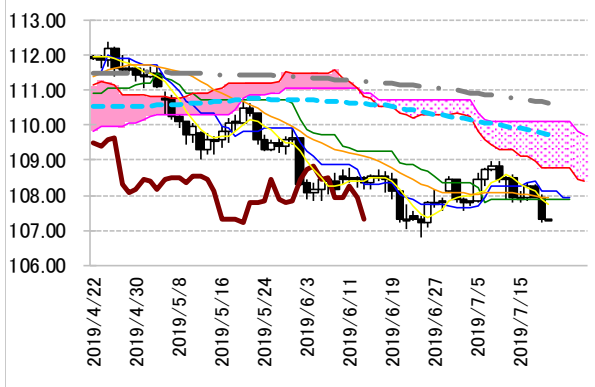
「米経済は良いところにあるが不確実性は増した」

「米経済成長を継続させるため適切に行動する」

「データが変わるまで待つ必要はない」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

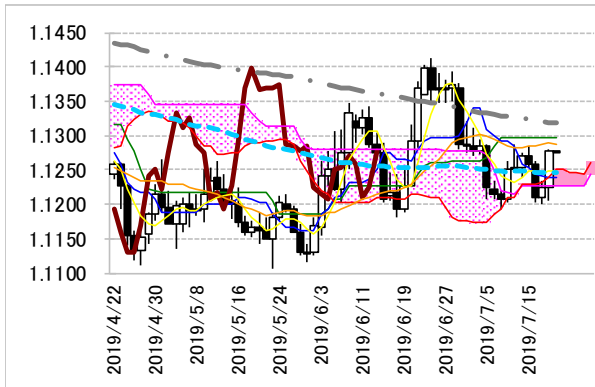


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移しており、終値が一目・転換線を下回っていることで売りシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	108.78(日足一目均衡表・雲の下限)
レジスタンス 1	108.10(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	107.30
サポート 1	106.78(6/25 安値)

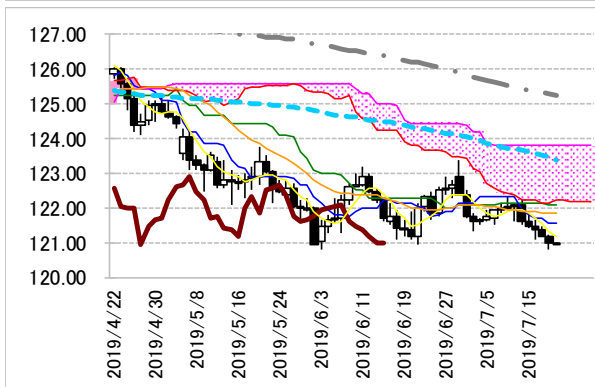


<ユーロドル＝雲の下限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、雲を上回ったことで買いシグナルが優勢な展開となった。孕み線、2手連続陽線で雲を上抜けたことで戻りの可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1412(6/25 高値)
前日終値	1.1277
サポート 1	1.1228(日足一目均衡表・雲の下限)

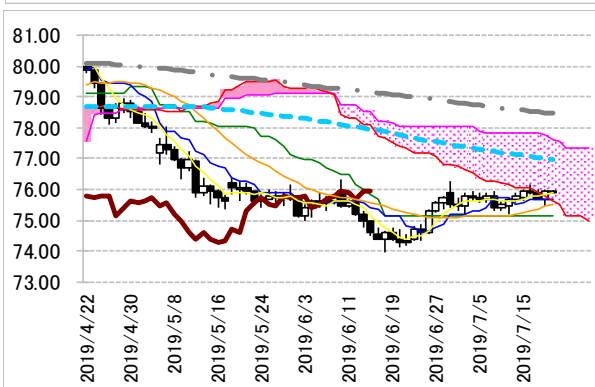


<ユーロ円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。5手連続陰線で続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	121.55(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	120.99
サポート 1	118.71(1/3 安値)



<豪ドル円＝基準線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移しているものの、一目・転換線を上回って引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	77.60(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	75.92
サポート 1	75.11(日足一目均衡表・基準線)

